

令和2年度 運営方針策定及び予算編成に向けた意見票（集約）

《活力・安全部会》

●経営課題3 【コミュニティ活性化とまちの魅力の創出】

委員	分類	ご意見
川井委員	具体的取組	<p>・コミュニティの活性化については、私の住んでいる町会（単体）で、今年4月から「ふれあいサロン」を立ち上げ、実施している。各連合長会で「ふれあい喫茶」をしているが、中宮では会場に近い3～4町会の人ばかりが参加しており、遠い町会からは行けない。「ふれあいサロン」では、懐かしのレコード・クラシックのCD・落語を聞いたり、百歳体操をしたり、囲碁・将棋・コミュニケーションマージャンをしたりしているが、参加する人は固定している。これから増やしていくのが課題だと思っている。</p>
川井委員	具体的取組	<p>・城北公園フェアは、毎年、来客の増加でにぎわっているが、このことが旭区にどのような効果をもたらしたのかがわからない。例えば、菖蒲園の入場者が増えたとか、千林商店街に旭区以外の人に来て買い物や飲食をしたりしているなら、効果があったと言えるが、そのような調査はしたのか。私はそのようには感じられない。</p> <p>・城北公園の近くに住むものとして、城北公園は地理的に近い人にとっては非常に有難い公園である。利用実態は、平日6:30のラジオ体操・犬の散歩・高齢者の散歩・憩いの場・ゲートボール・将棋・保育園児の外遊び・小学校の校外学習等、利用されている。休日は、平日にプラスして親子でのボール遊び・若者のスケボー・高校生のダンスの練習・ランニングコースでのランニングやウォーキング等。公園の規模に見合うだけ人々に十分利用されていると思う。敢えて付け加えるなら、西の方にある半円形のコンクリートは、子どもの滑り台が小さな子供に大人気であり、東の方にももう一台作ってあげたらと思う。</p>

石中委員	具体的取組	<p>3-1-①（地域社会の活力向上支援）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10個の地活協が毎月1回として120件以上を目標としているが、すべての地活協の毎月1回の事業すべてにアドバイスするという事か。その記録はあるのか。 <p>3-1-②（コミュニティの活性化）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種催しを知っている割合を目標にするだけでなく、実際に参加した人の割合も数値目標に加えるべきでは。催し自体が区民にとって関心あるものかどうかを判定する必要があるのでは。 <p>3-2-③（商店街の魅力向上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強会実施回数や誘致数を目標にしては。商店街に魅力を感じる割合は具体的取組の勉強会等の効果もある一定はあると思うが、それ以外の要因もある。取組内容とその結果評価のための目標が一致しない。
弾委員		<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢社会の中で、バランスの取れた人口構成をめざす旭区がやるべきことは、他の行政区より、より魅力ある町を目指さなくてはならないが、その魅力を作り出すためには限られた予算配分をかえなくてはならないと思う。例えば、若い世代の方が旭区に住めば、商店街の1万円の商品券では何の魅力もない。例えば、行政の財源である固定資産・住民税の割引（一定期間）に繋がるような画期的なサービスが必要でないか。また、空家対策を兼ねて空家を格安で借り上げ、低家賃もしくは無償で提供し、地域に根づく若い住民世代を誘致し、そのサービスを受けた方は地域活動等に積極的に参加協力することが条件であるとすれば、コミュニティの活性化に繋がられ、各地域でコミュニティを形成する次世代の方が育ち、「世代交代」が実現できるのではないか。 ・かつて旭区だけではなく、日本中が商店街で賑わっていた時代が去り、インバウンド効果で一部の商店街を除き、ほとんどの商店街がシャッター通りになっている。市民生活において、商店街はただ単に買い物ゾーンだけではなく、商業者自身も地域住民の一員であり、コミュニティを形成している。また、商店街は通学・通勤路であり、安心・安全なまちづくりに大きく貢献しており、無くてはならない存在であるが、2000年の大店法の施行以来、小規模小売業者は急激に減少し、商店街の衰退に繋がり、生活者を保護する法律が生活者を脅かしており、現実を理解してもらい、早急に対策を共に考え、実行してほしい。
岸本委員		<p>戦略3-2【まちの魅力創出や地域経済活性化施策の展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店街の魅力向上（予算637千円）について、旭区に商店街がいくつつあるかわからないが、この程度の予算ではたして何ができるのか。

●経営課題4 【地域防災力・地域防犯力の強化】

委員	分類	ご意見
川井委員	めざす状態・具体的取組	<p>・地震は、今の科学技術では予想不可能な部分があると思われ、もし発災すれば諦めもつくが、大雨による河川の氾濫は避難可能な時間に、ある程度の予測がつくと思われる。地球温暖化が益々進む中、大雨による危険も増加するであろう。旭区の地域防災マップでは、水害時避難ビルは市営住宅の建物だけになっている。旭区の人口は9万人を超えているが、仮に半数が在住の時に淀川が氾濫危険水位になれば、4万5千人の避難場所が必要である。高層ビルが少ない中、是非、常翔学園と交渉し、緊急避難場所にすべきだと思う。</p> <p>・避難の勧告・指示の面からは、常翔学園の高い建物からの淀川水位の監視カメラ設置が有効と思われる。この地点の推移の把握が的確になり、旭区だけでなく大阪市の多くの区にとっての予報に役立つと思う。淀川河川カメラは、枚方と福島区に有るが、どちらも見難い位置である。距離も旭区は中間点に近く、高所から淀川を見下ろす角度になるので、映像での危険状態が解りやすくなる。旭区に願うより、大阪市の云うべきことかもしれない。その際は、区長から是非、大阪市の提案してもらえたらと思う。</p>
弾委員		<p>・区政会議の大きな議案のひとつである地域防災について、委員の中に防災に関して大変見識深い方々がいるが、この議案は非常に専門的な知識がないと一般の委員は深く議論ができないように思う。また、消防・警察の方が参加していない会議では、実効性に欠けるのではないかと。そこで、この大切な議案は、区役所・消防・警察・見識深い委員によって議論してもらい、その経緯・結果を区政会議にかけてもらったらどうか。</p>

<p>石 中 委 員</p>	<p>具 体 的 取 組</p>	<p>4 - 1 - ① (地域防災意識の向上) ・ 訓練や研修への防災リーダーや区職員の参加人数を目標に追加してはどうか。</p> <p>4 - 1 - ② (地域防災力の底上げ) ・ 防災物資の整備・充実を図るのなら、どこにどれだけ整備したのかリストを作成して、アンケート実施者に提示しないと区民アンケートで評価しようがない。災害時連携や協定締結など具体的が数字目標を入れるべき。大型粉末消火器の周知を図るなら、説明会等への参加人など具体的数字が必要ではないか。</p> <p>4 - 2 - ② (交通安全・自転車のマナーアップ及び放置自転車対策の強化) ・ 「効率的な撤去」とあるが、何を効率的に撤去するのか分からない。たぶん自転車のことだと思うが。また自転車の効率的な撤去が自転車交通事故発生にどのように寄与するのか分からない。</p>
<p>阪 本 委 員</p>	<p>め 具 体 的 取 組 状 態</p>	<p>・ 昨今の理不尽な犯罪行為は、なんの落ち度もない方々を巻き込み本当に許し難いものであります。このようなことが起こらないようにする為には、どうすればよいのか？また、事件が発生した場合の対応について考えたい。これは、意見ではなく問題提起であります。</p>